

東日本大震災から10年

今年、東日本大震災から10年の節目にあたります。改めまして、震災で亡くなられた方々にご冥福をお祈り申し上げるとともに、被災された全ての方々に心よりお見舞い申し上げます。

復興期間として取り組んできたこの10年間において、東北地方整備局港湾空港部では、「東北港湾の復旧・復興基本方針」に基づき、港湾管理者等と共に港湾施設の復旧工事に取り組んでまいりました。平成29年度末には国が行う港湾災害復旧事業全てが完了し、現在は各県による防潮堤などの整備を一部残すものの令和3年度内には全てが完了する見込みです。

この他、東日本大震災を教訓とした取り組みとして、東北の主要港湾全ての港湾BCPや広域かつ大規模な災害時に相互バックアップ機能を果たすための東北広域港湾BCPを策定しました。また、最近の港湾を取り巻く動向から、激甚化する台風などの自然災害やヒアリ等外来生物の侵入対策、新型コロナウイルス感染対策など、幅広い水際対策を港湾関係者が連携して取り組むための連絡体制構築を目的とする「水際・防災対策連絡会議」の設立など、更なる港湾の災害対応力強化にも取り組んでまいります。

また、洋上風力発電の進展やCNP(カーボンニュートラルポート)などを取り入れた新しい「東北港湾ビジョン」が策定されるところであり、引き続き新たな東北港湾の実現に向け取り組んでまいります。

現在、新型コロナウイルスの影響により、海上コンテナ物流や、クルーズ船運航にも支障が生じていますが、一刻も早く感染拡大が収束し、再び、復興の歩みが再開できるよう、港湾行政を通じて対応してまいります。

港湾空港部は、これからも東北地方の益々の発展のため、「暮らしと経済を支える港湾」の実現に尽力して参りますので、ご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和 3年 3月1日

東北地方整備局 港湾空港部長 木本 仁